イノテック株式会社
2027年３月期 第２四半期 決算説明会
2026年11月10日

1 27年3月期 第2四半期実績

2 27年3月期 通期見通し

3 中長期戦略

INNOTECH

27年3月期 第2四半期 決算のポイント

連結売上高は前年同期比で26.4％増
連結営業利益は前年同期比で148.3％増

テスター事業は前年度第４四半期から継続するNAND向けテスター需要の回復により、大幅増収を達成

半導体設計関連事業はEDAの契約更改が順調に行われたことなどにより、前年同期を上回る実績で着地

システム・サービス事業は車載向けが軟調だった一方、組込みの好調がセグメント全体の業績を大きく牽引し増収増益

27年3月期 第2四半期実績

（単位：百万円）

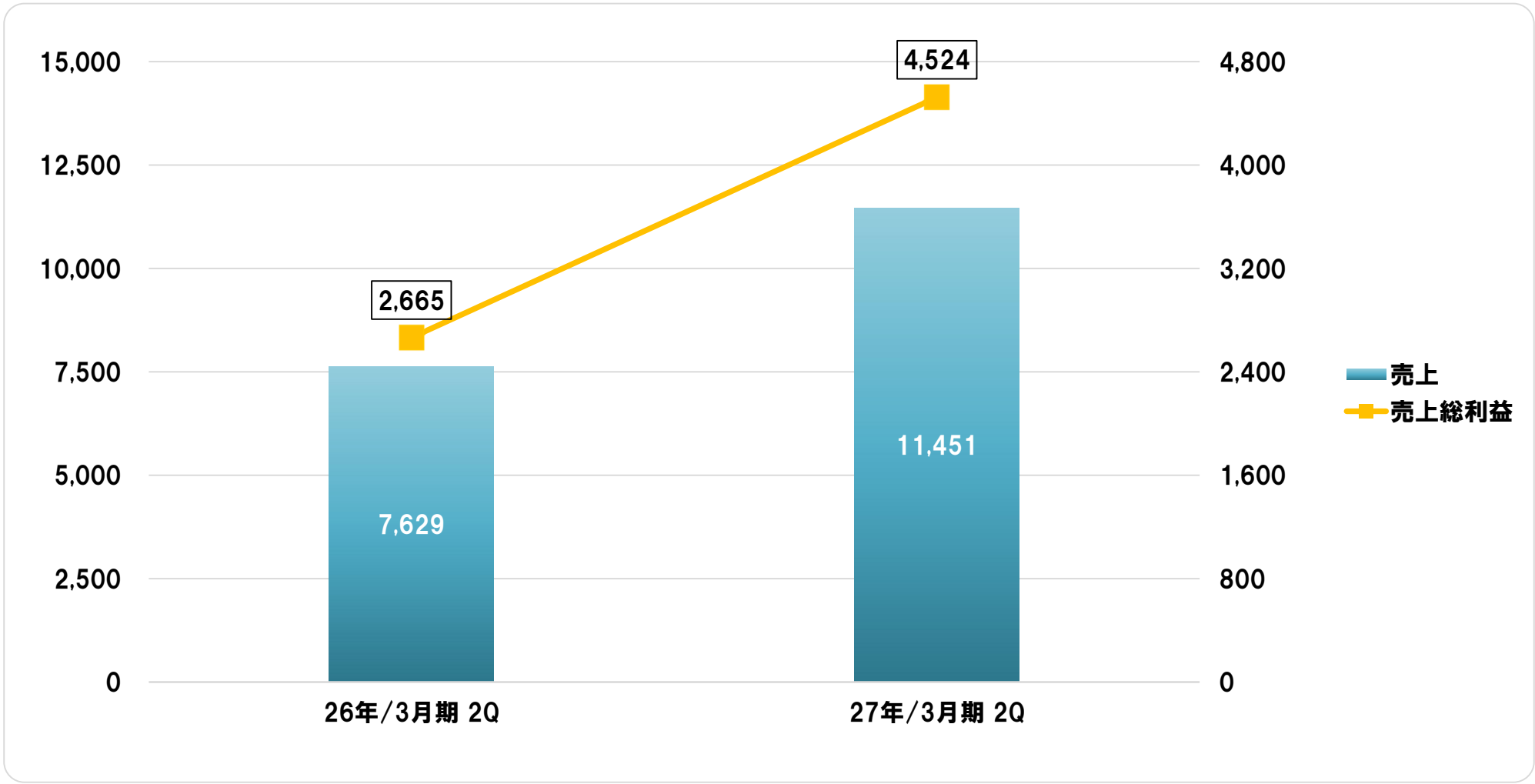
	イノテック		三栄ハイテックス		アイティアクセス		ガイオ・テクノロジー		STAr Technologies		その他		連結損益		増減率
年度	26年/3月期 2Q	27年/3月期 2Q	26年/3月期 2Q	27年/3月期 2Q	26年/3月期 2Q	27年/3月期 2Q	26年/3月期 2Q	27年/3月期 2Q	26年/3月期 2Q	27年/3月期 2Q	26年/3月期 2Q	27年/3月期 2Q	26年/3月期 2Q	27年/3月期 2Q	
売上高	8,733	14,380	1,945	1,917	2,746	2,485	2,378	1,979	5,589	6,068	428	728	21,601	27,299	26.4%
売上総利益	2,383 (27.3%)	4,616 (32.1%)	547 (28.1%)	466 (24.3%)	807 (29.4%)	774 (31.2%)	801 (33.7%)	609 (30.8%)	1,830 (32.7%)	2,159 (35.6%)	170 (39.7%)	375 (51.5%)	6,520 (30.2%)	8,986 (32.9%)	37.8%
営業利益	370 (4.2%)	2,130 (14.8%)	167 (8.6%)	127 (6.7%)	313 (11.4%)	304 (12.3%)	334 (14.0%)	174 (8.8%)	-30 -	32 (0.5%)	-5 -	72 (10.0%)	1,137 (5.3%)	2,825 (10.3%)	148.3%
経常利益	1,490 (17.1%)	2,854 (19.8%)	212 (10.9%)	131 (6.9%)	314 (11.4%)	319 (12.9%)	345 (14.5%)	203 (10.3%)	-632 -	99 (1.6%)	-7 -	71 (9.8%)	752 (3.5%)	2,766 (10.1%)	267.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,535 (17.6%)	4,665 (32.4%)	156 (8.0%)	83 (4.3%)	217 (7.9%)	202 (8.2%)	239 (10.1%)	138 (7.0%)	-672 -	57 (1.0%)	-4 -	68 (9.4%)	574 (2.7%)	4,284 (15.7%)	645.8%

（※） 百万円未満切捨て （※） （）内は売上高利益率です。

（※） その他は連結子会社であるレグラス、モーデック、ファイ・マイクロテック、ネットビジョンの合計になります。

（※）イノテックでは子会社配当を営業外収益として26年/3月期2Qに828百万円、27年/3月期2Qに806百万円を計上しています。

27年3月期 第2四半期 テストソリューション事業



（※）百万円未満切捨て

テストソリューション事業

テスター

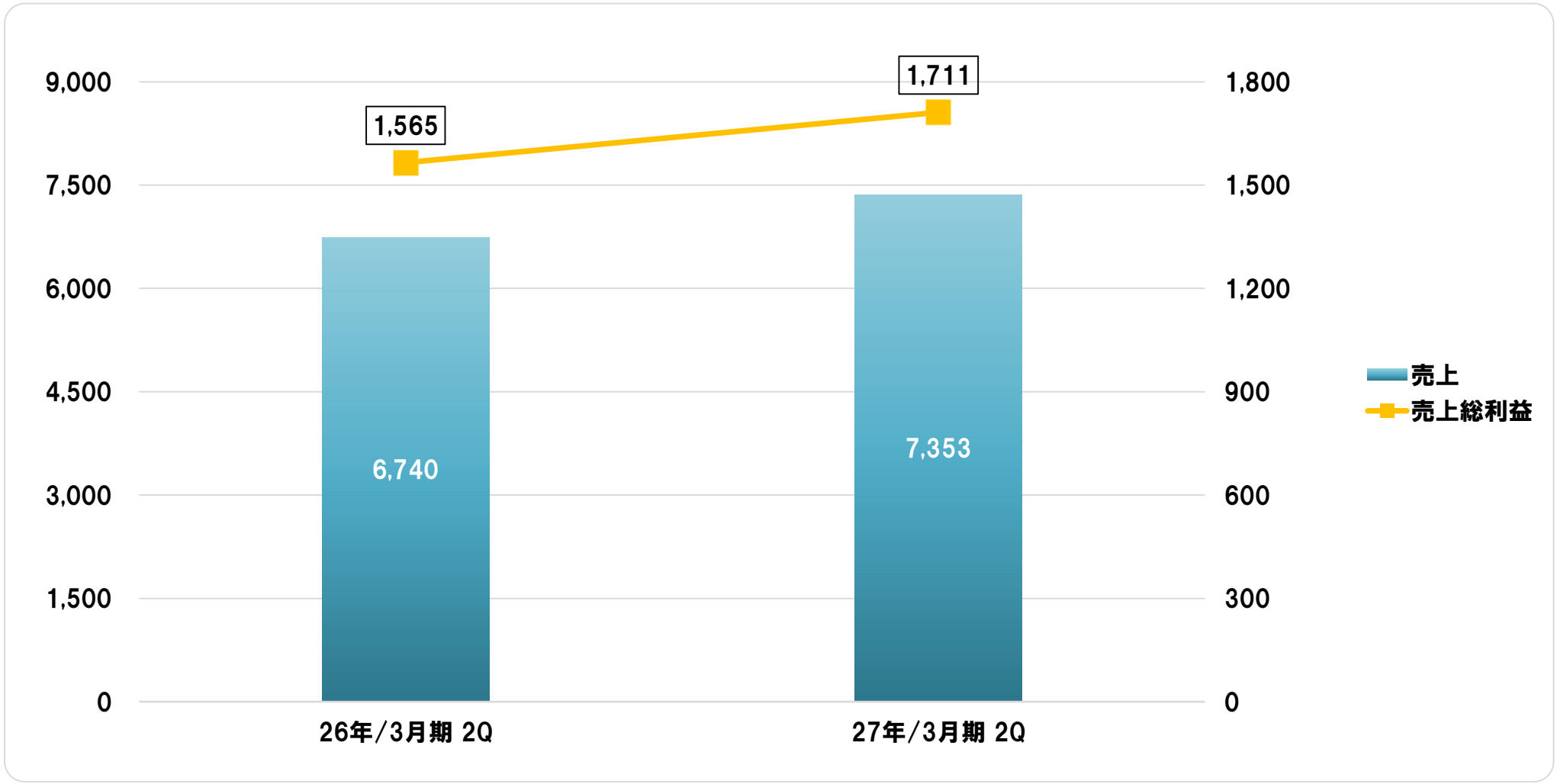
NAND型フラッシュメモリ向けテスターは、主要顧客各社で一定規模の需要が集中し、大幅増収

STAr

信頼性評価装置が堅調に推移し、プローブカードは大手ファウンドリ向けの安定受注により、増収を達成

27年3月期 第2四半期 半導体設計関連事業

〔売上:百万円〕　　〔売上総利益:百万円〕



（※）百万円未満切捨て

半導体設計関連事業

EDA

主力のIC設計ツールは大口顧客との契約更改が順調に進み、競合からの一部置き換えも寄与して増収

三栄ハイテックス

半導体ビジネスはプロジェクト開始の遅れがあったものの第2四半期に持ち直した一方で、車載向けソフトウェア事業は依然として厳しい状況

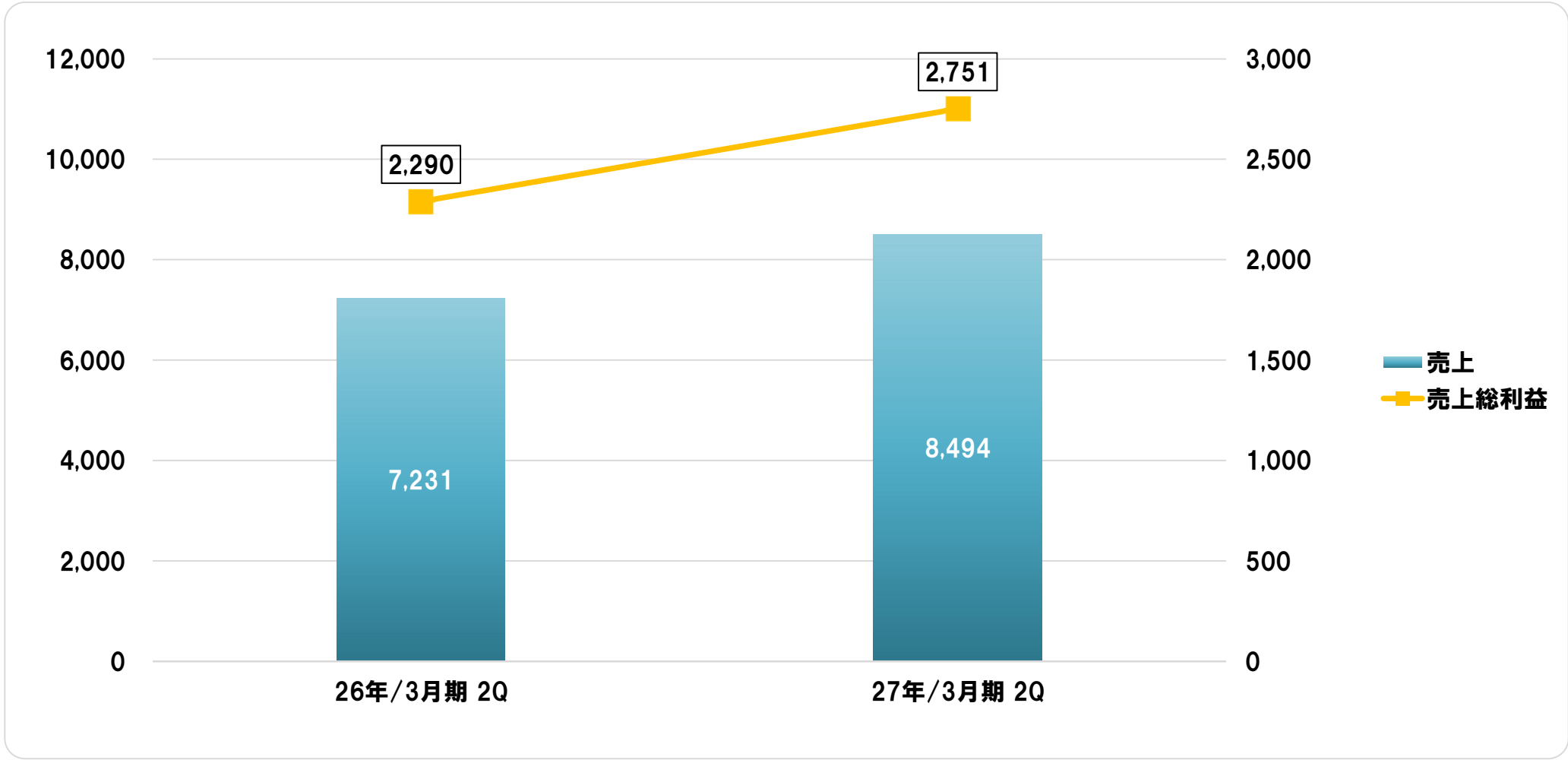
モーデック

前期受注の大型案件が売上計上されたことで、増収黒字化に貢献

27年3月期 第2四半期 システム・サービス事業

〔売上:百万円〕

〔売上総利益:百万円〕



（※）百万円未満切捨て

システム・サービス事業

組込システム

半導体製造装置やデータセンター関連をはじめ、社会インフラ、防衛、船舶向けなど幅広い分野での需要も好調、部材不足を見越した前倒し需要も相まって大幅増収

アイティアクセス

決済ビジネスはサービス収益が堅調に推移したものの飲料自販機向け端末販売が振るわず、前年同期を下回り減収

ガイオ・テクノロジー

自動車業界の景況感が改善しない中、顧客の投資抑制が続いたことから計画未達となり、減収減益

レグラス

建機向け自社製品の立ち上がりが鈍く、減収赤字化

主な費用と営業外収支、特別損益の内訳

〔百万円〕

	26年3月期 第2四半期	27年3月期 第2四半期
研究開発費	965	1,089
減価償却費	624	645
のれん償却額	67	83
主な営業外収支項目		
不動産賃貸収入	241	96
不動産賃貸費用	176	109
為替差益	-	87
為替差損	316	-
支払利息	79	59
自己株式取得費用	1	61
主な特別損益項目		
固定資産売却益	0	3,481
投資有価証券売却益	407	-

（※）百万円未満切捨て

キャッシュ・フローの状況

〔百万円〕

	26年3月期 第2四半期	27年3月期 第2四半期
税金等調整前当期純利益	1,160	6,233
減価償却費及びのれん償却額	691	731
運転資金等	-222	-5,234
法人税等の支払額	-430	-1,897
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,200	-167
固定資産の取得による支出	-573	-538
固定資産の売却による収入	1	7,118
長期前払費用の取得による支出	-42	-92
投資有価証券の売却による収入	522	-
新規連結子会社の取得による支出	-	-181
その他投資	-104	49
投資活動によるキャッシュ・フロー	-196	6,355
短期借入金の純増減額	-669	535
長期借入金の純増減額	800	-300
自己株式の取得による支出	-68	-2,433
配当金の支払額	-480	-1,129
その他	-5	-2
財務活動によるキャッシュ・フロー	-423	-3,330
現金等の中間期末残高	6,891	11,212

（※）百万円未満切捨て

本社ビル売却完了に伴う財務状況への影響

- 本社ビル売却資金の受領により、現預金残高が一時的に増加
- 今後の成長投資や資本政策を機動的に実行できる財務余力が向上

本社ビルの売却



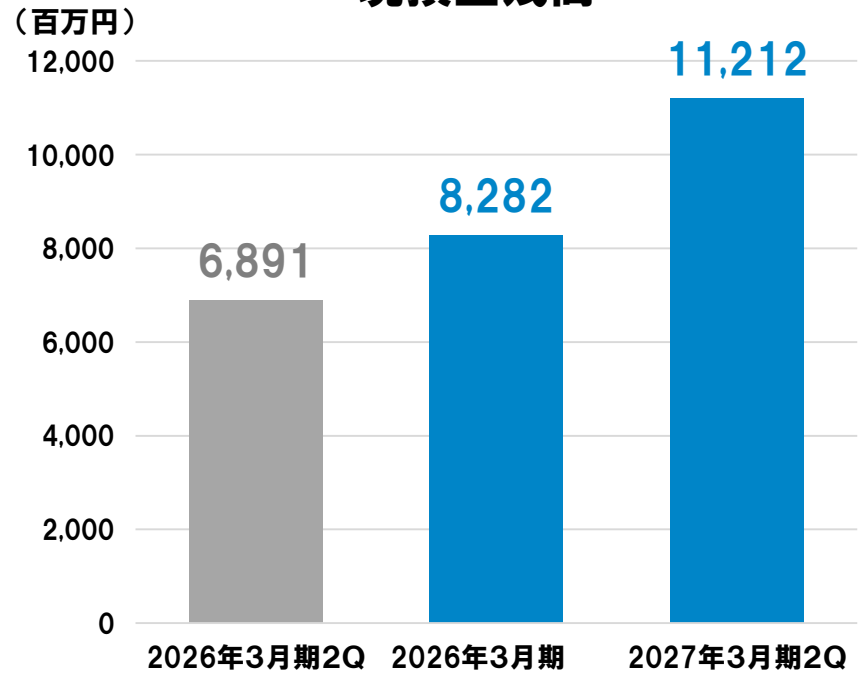
2026年9月
本社ビルの土地・建物の売却を完了

譲渡益の計上

2026年3月期	2027年3月期2Q
29億10百万円	34億79百万円

譲渡益総額：63億90百万円

現預金残高



1 27年3月期 第2四半期実績

2 27年3月期 通期見通し

3 中長期戦略

27年3月期 通期予想のポイント

全てのセグメントで増収増益を達成する見通し
連結業績を再度上方修正、最高益を更に更新見込み

テストソリューション事業は国内需要が回復、海外向けの製品も好調で増収増益となる見込み

半導体設計関連事業はEDAの契約更新およびモーデックの大型案件受託が寄与し増収増益の見通し

システム・サービス事業は自動車産業不調の影響を免れないものの組込システムの需要増と価格改定により増収増益を見込む

業績予想および配当予想の修正

業績予想の修正

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	51,000	4,000	4,000	5,000	415円46銭
今回修正予想（B）	54,000	5,000	4,900	5,700	493円72銭
増減額（B－A）	3,000	1,000	900	700	－
増減率（％）	5.9%	25.0%	22.5%	14.0%	－
（参考）前期連結実績（2026年3月期）	46,737	3,108	2,912	4,111	320円19銭

配当予想の修正（1株当たり配当金）

	第2四半期末	期末	年間	
前回発表予想（A）	90円	40円	130円	
今回修正予想（B）	90円	80円	170円	
増減額（B－A）	－	40円	40円	※
（参考）前期実績（2026年3月期）	35円	90円	125円	

※増配40円の内訳：普通配当10円の増配 ＋ 創立40周年記念配当30円

業績予想修正のポイント

イノテック（単体）

■ テスター
- NAND向けの需要回復と海外向けテスターやバーンイン工程用ボードの売上好調
- 研究開発費の増加も織り込む

■ 組込システム
- データセンターや半導体製造装置向けの需要拡大と部材価格上昇に伴う価格改定により、売上増に加え採算維持

▲ 増額

売上予想	237億円	→	265.5億円
営業利益予想	20億円	→	31億円

アイティアクセス

決済端末の出荷減少に車載系の開発需要減速が重なる

▼ 減額

売上予想	58億円	→	54億円
営業利益予想	6.2億円	→	5.5億円

ガイオ・テクノロジー

自動車業界の開発投資低迷により検証サービス需要が減少

▼ 減額

売上予想	39億円	→	37億円
営業利益予想	4億円	→	3億円

27年3月期 通期予想

〔百万円〕

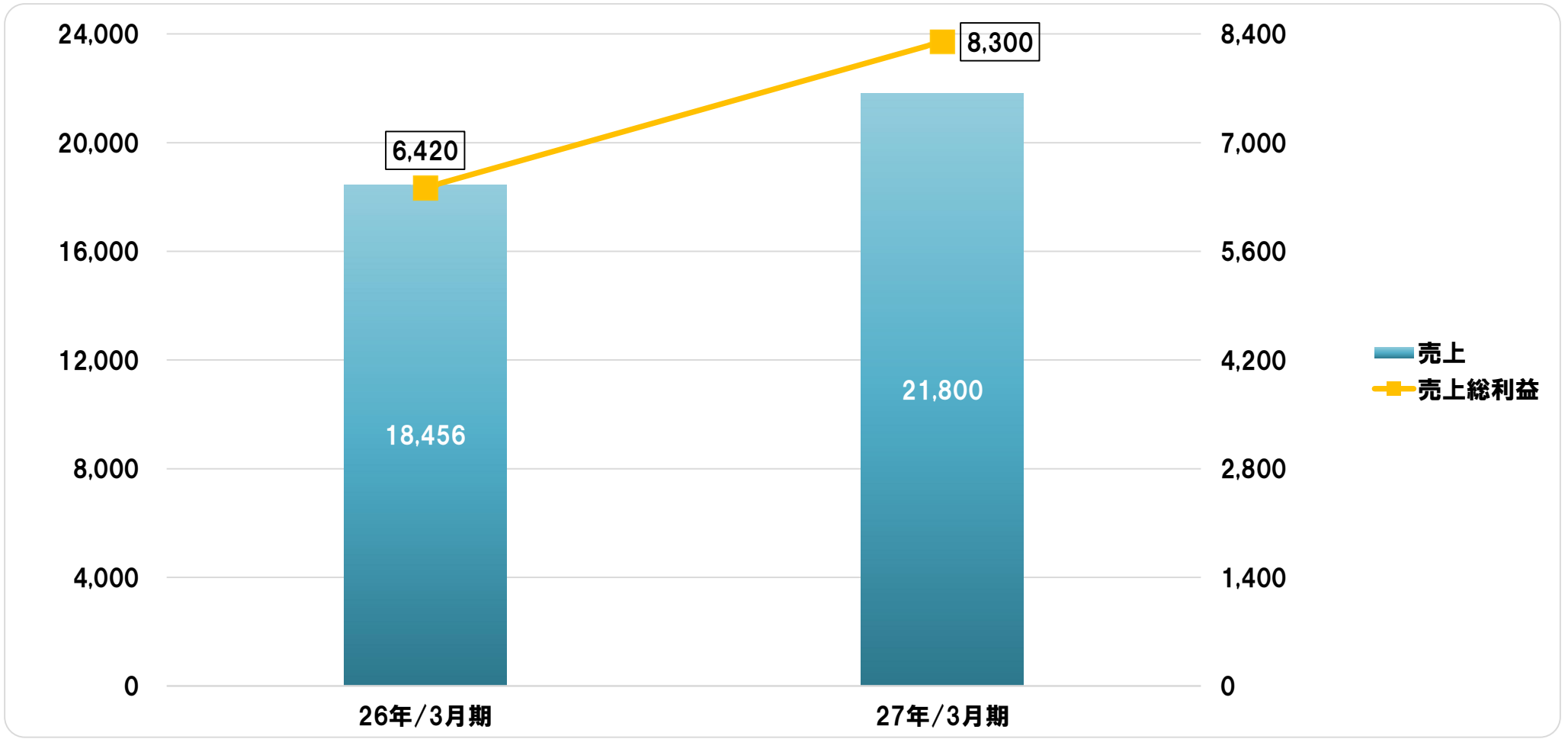
	イノテック	三栄ハイテックス	アイティアクセス	ガイオ・テクノロジー	STAr Technologies	その他	連結損益	前期実績	増減率
売上高	26,550	3,850	5,400	3,700	14,000	1,650	54,000	46,737	15.5%
売上総利益	8,220	980	1,600	1,200	4,950	850	17,600	14,246	23.5%
	(31.0%)	(25.5%)	(29.6%)	(32.4%)	(35.4%)	(51.5%)	(32.6%)	(30.5%)	
営業利益	3,100	300	550	300	580	180	5,000	3,108	60.8%
	(11.7%)	(7.8%)	(10.2%)	(8.1%)	(4.1%)	(10.9%)	(9.3%)	(6.7%)	
経常利益	3,900	300	550	330	530	180	4,900	2,912	68.3%
	(14.7%)	(7.8%)	(10.2%)	(8.9%)	(3.8%)	(10.9%)	(9.1%)	(6.2%)	
親会社株主に帰属する当期純利益	5,600	215	370	230	420	130	5,700	4,111	38.6%
	(21.1%)	(5.6%)	(6.9%)	(6.2%)	(3.0%)	(7.9%)	(10.6%)	(8.8%)	

（※）百万円未満切捨て

（※）その他は連結子会社であるレグラス、モーデック、ファイ・マイクロテック、ネットビジョンの合計になります。

（※）(　)内は売上高利益率です。

27年3月期 通期見通し テストソリューション事業



（※）百万円未満切捨て

テストソリューション事業の通期見通し

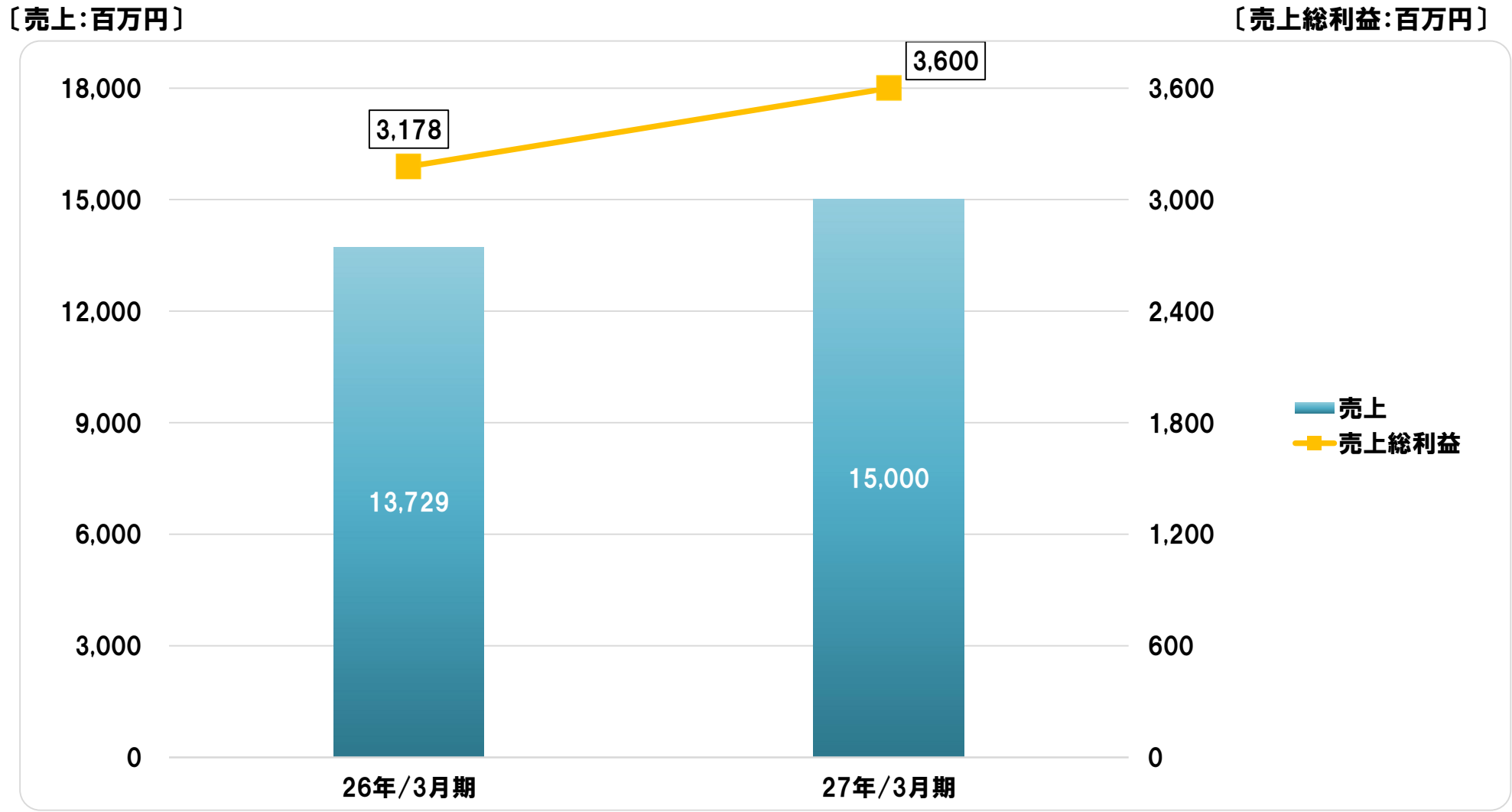
テスター

主要顧客の需要回復・拡大に加え、海外向けテスターやバーンイン工程用ボードの売上好調も寄与し、増収の見通し

STAr

プローブカードが堅調に推移したもののベンダーの納期遅れで信頼性評価装置の売上の一部が来期以降にずれる公算が大きく、減益の見込み

27年3月期 通期見通し 半導体設計関連事業



（※）百万円未満切捨て

半導体設計関連事業の通期見通し

EDA

主要顧客におけるIC設計ツールの期間ライセンス契約更新が堅調に推移、安定したストック収益を土台に通期でも増収基調を維持する見通し

三栄ハイテックス

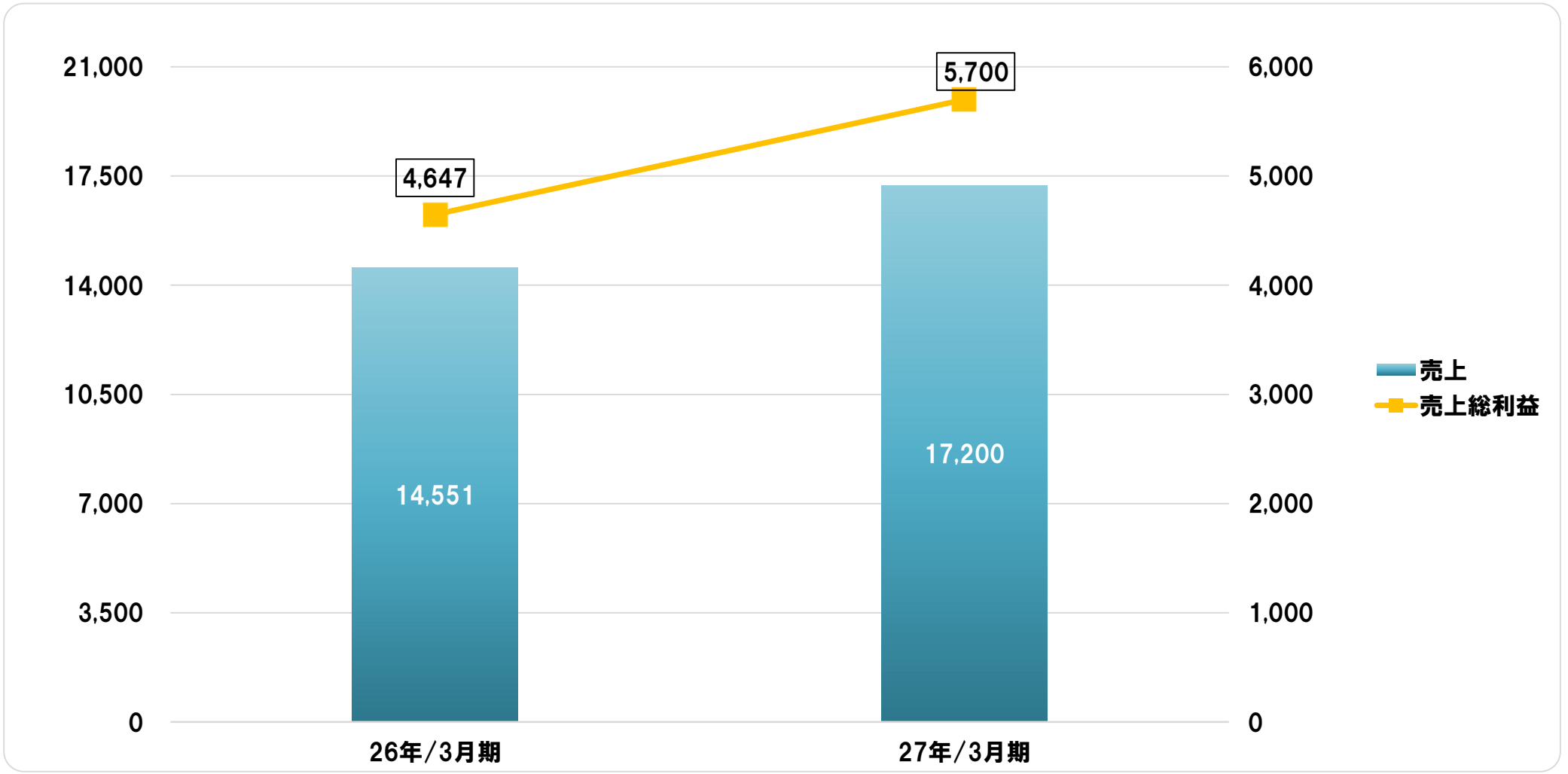
LSI設計受託の稼働率が高水準を維持し、増益を目指す

モーデック

大型研究開発プロジェクトの受託案件が前期から引き続き好調で業績に大きく貢献、増収増益を見込む

27年3月期 通期見通し システム・サービス事業

〔売上:百万円〕　　〔売上総利益:百万円〕



（※）百万円未満切捨て

システム・サービス事業の通期見通し

組込システム

データセンター向けや半導体製造装置向けの需要拡大に加え、部材価格上昇に伴う価格改定が奏功し、増収の見通し

アイティアクセス

決済サービス収入による業績の下支えが継続するものの、端末の新規出荷減少と車載情報系の開発需要減速が影響し減収減益の見込み

ガイオ・テクノロジー

自動車業界の開発投資低迷で検証サービス需要が減少、大型のEV開発プロジェクト休止も影響し減収減益となる見通し

レグラス

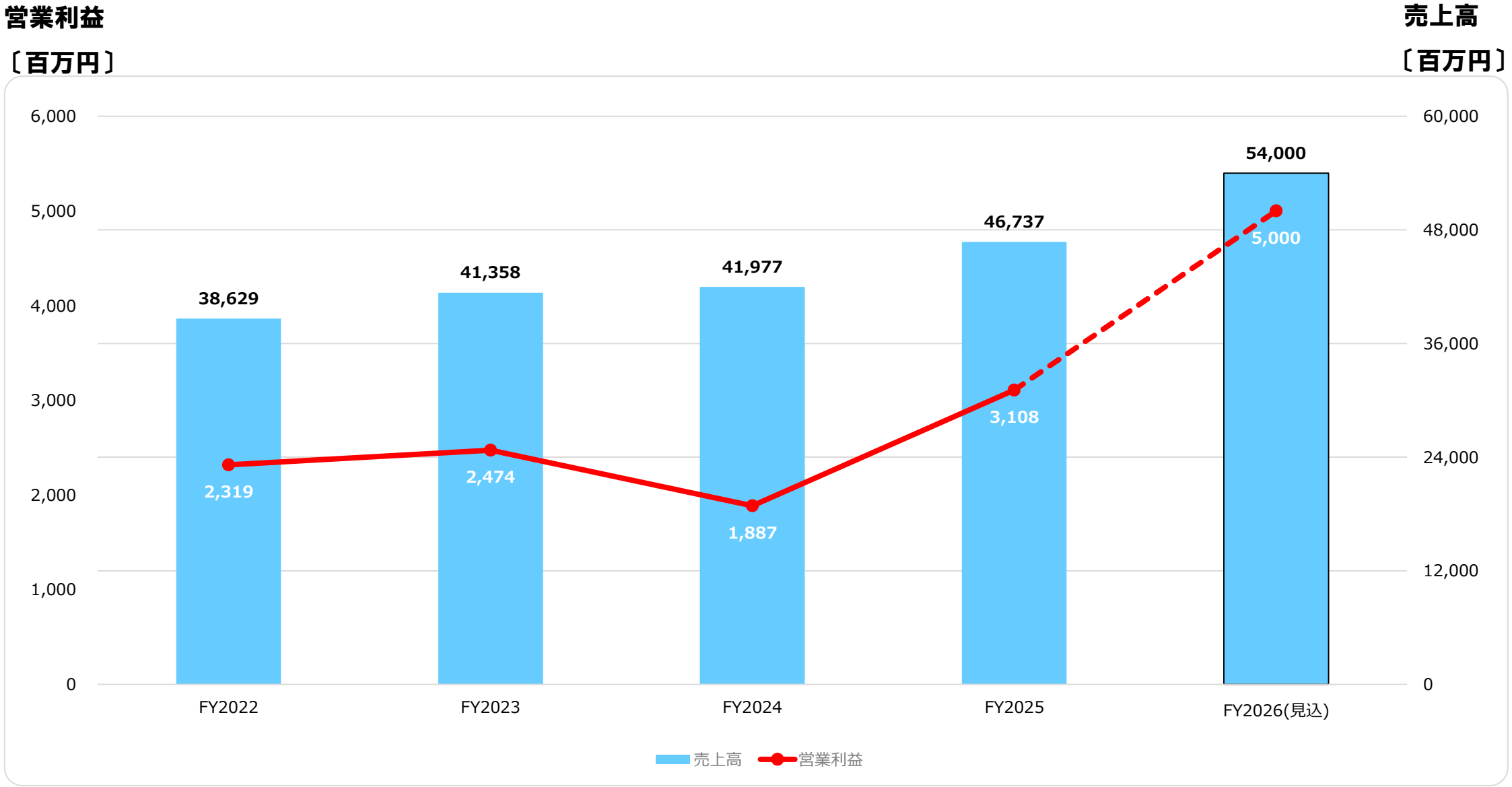
下期でフォークリフト向けの売上を伸ばして増収を見込む一方、コスト面では人件費や研究開発費などの負担増加で減益となる見込み

1 27年3月期 第2四半期実績

2 27年3月期 通期見通し

3 中長期戦略

業績の推移



（※）棒グラフの上に位置する数値は売上高の通期合計です
（※）FY2026（27年3月期）における売上高および営業利益は見通しです

中期経営計画（FY2024～2026）の概要

基本的な考え方

- 株価/PBR上昇には収益性（ROEなど）と成長性（PER）双方の向上が必要

基本戦略（ROE向上、資本コスト低下、期待成長率向上）

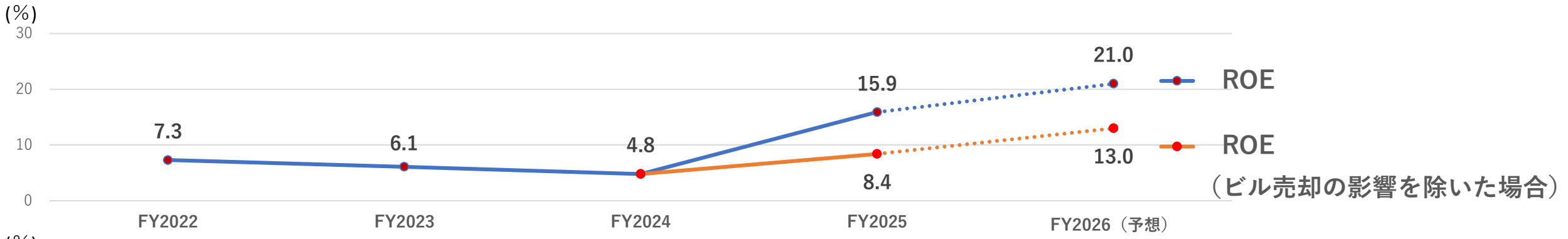
- 営業利益率向上
  - ・各事業の成長と収益性改善
  - ・業務効率改善のための施策（DX投資など）
- 経営資源の再分配による事業ポートフォリオの最適化
  - ・成長分野への集中投資
  - ・事業見直し並びにグループ再編
- 業績の安定性向上
  - ・ストック型ビジネスの強化
  - ・特定顧客依存からの脱却
  - ・製品ラインナップの充実

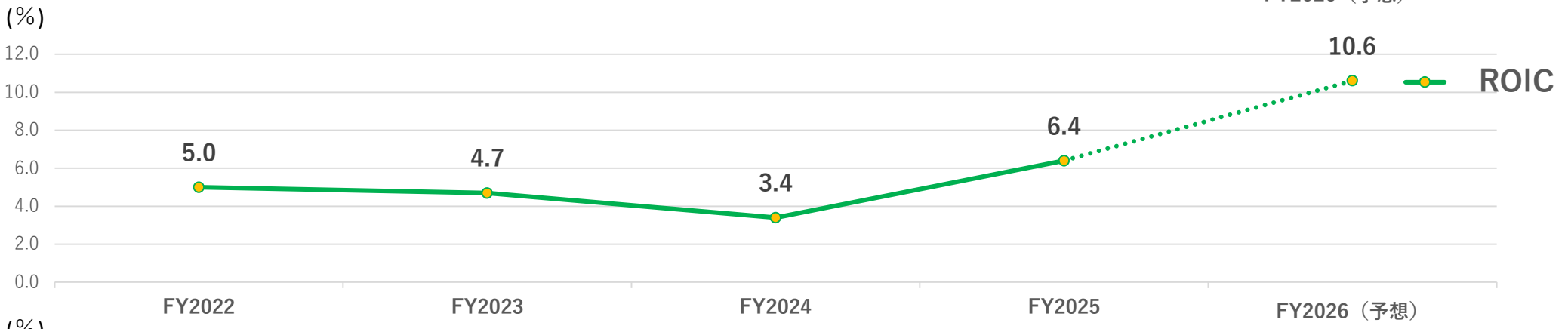
数値目標

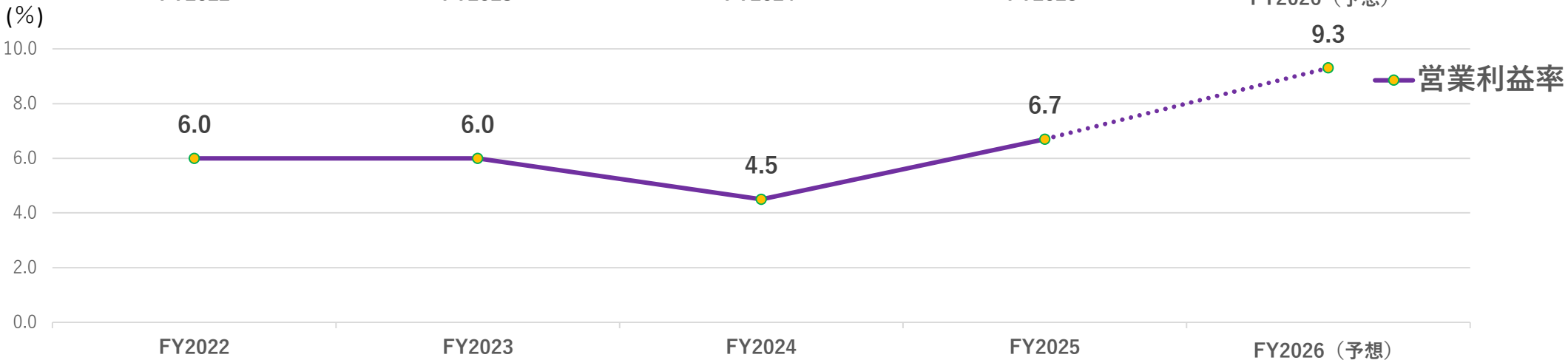
- ROE 10%を目指す（8%以上を維持）
- ROIC 8%を目指す（6%以上を維持）

※業績の目安：営業利益率7～8%、連結営業利益の過去最高益（2007年度：33億32百万円）を更新

ROE/ROIC/営業利益率の推移







中計事業戦略の進捗　～テストソリューション事業～

INNOTECH CORPORATION
テスター

NANDフラッシュメモリー向けを主軸としつつ、製品ラインナップを拡充

- DRAMテスター、量産向け装置開発開始
- CMOSイメージセンサーテスト用高速IF基板開発及び評価開始
  - 現行モデル　（5Gbps超対応）　評価完了し、拡販フェーズへ
  - 次世代モデル（10Gbps超対応）開発中



STAr Technologies, Inc.

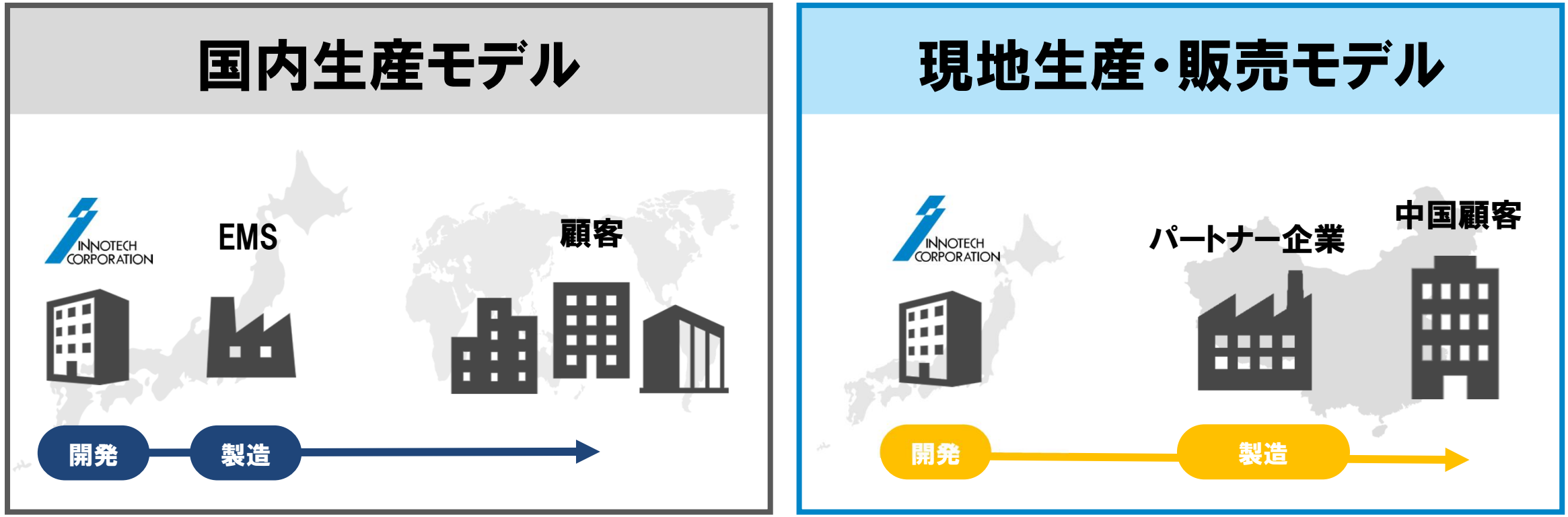
製品ポートフォリオの再編

- 低電圧～高電圧に対応する信頼性試験装置を中核に市場展開
- 先端プロセスに対応するMEMS型プローブカードやパワー半導体向け高耐圧プローブカードの開発

製品ポートフォリオの拡充と最適化

中国向けテスターの現地生産化

- 需要の高まりに伴い、現地における生産体制を本格化
- 収益構造をロイヤリティ収入モデルに大きく変更



顧客対応力向上・コスト競争力強化・中国市場での販売拡大を推進

中計事業戦略の進捗　～半導体設計関連事業～

既存事業の着実な成長と、グループ連携による事業領域の拡大

EDAを核に収益基盤を強化し、グループ各社の技術・知見を活用した新たな製品・サービスの創出を推進

1 EDA事業
着実な進展

- 大手顧客との契約更改等により、EDA事業が堅調に推移
- 既存顧客との取引拡大に加え、新たな需要の取り込みを推進

2 経営基盤
グループ基盤の強化

- 三栄ハイテックスの事業再編を通じ、経営資源を成長領域へ集中
- グループ各社の技術・知見を活用し、高付加価値な提案を強化

3 成長領域
グループシナジーの創出

- シリコンフォトニクス・光電融合技術を活用
- 三栄ハイテックス、モーデック等との連携により、新たな製品・サービスの創出を目指す

INNOTECH CORPORATION EDA

三栄ハイテックス株式会社 SANEI HYTECHS co.,ltd.

MoDeCH

株式会社ファイ・マイクロテック PHi microTech

EDAを核とした収益基盤の強化 ×　グループの技術融合による成長機会の創出

中計事業戦略の進捗　～システム・サービス事業～

組込システム



データセンター、物流等の活発市場中心にODM案件の強化を継続

- “INNINGS”は産業用PC中心に半導体関連需要に対応すべく供給体制を強化
- 生産管理システムを新たに導入、部品特性評価にも外部リソースを積極活用

決済系の新規マーケット展開と新サービスの提供

- オフィスコンビニ、アイス自販機、駐車場など新規マーケットへ水平展開
- サイネージ動画、ポイント連携、ゲーム等の非決済サービスを合わせて提供し、収益の多層化狙う

自動車業界の変革に適応するマーケティングとビジネス拡大

- 車載ソフトウエアとコンテンツをつなぐ配信プラットフォームの展開に注力
- ソフトウェア開発時に有効な業務効率化ツールを開発中、先行紹介

マスカスタマイゼーション＆パーソナライゼーション

REGULUS CO., LTD. ロジスネクスト社との戦略的パートナーシップを強化

REGULUS

- **高度な画像処理技術**
  画像認識、検査、解析などの先端技術を保有
- **空間認識技術**
  AIによる人・物の検知、行動解析技術

Logisnext

- **幅広い物流機器ラインナップ**
  あらゆる物流シーン（港湾から倉庫、工場まで）をカバー
- **物流現場の知見**
  長年の経験に基づく現場課題の理解とソリューション提案力



レグラスのAI人検知システム「OmniEye」

2022年より「OmniEye」搭載安全システムを販売
国内累計1,000台超に搭載

- 適用車種拡大
- 安全プラットフォームの構築
- 海外展開加速
- 安全領域以外への展開



AIによる人検知と車両制御技術を融合し、物流安全性向上に貢献

株主還元（配当政策）

	中　間	期　末	通　期	配当 性向
26年3月期	35	90 （普通配当40） （特別配当50）	125	39.0%
27年3月期（予）	90 （普通配当40） （特別配当50）	80 （普通配当50） （記念配当30）	170	34.4%

※本社ビル売却による特別利益計上に伴い特別配当を実施
※期末配当で創立40周年記念配当の実施を見込む

自己株式の取得完了および消却の実施について

- 2026年5月14日に公表した自己株式取得をすべて完了
- 自己株式の一部消却を決議

2026年5月14日の取締役会決議に基づき取得した自己株式の累計

取得した株式の総数	：	691,600 株
株式の取得価額の総額	：	2,499,906,468円

自己株式の消却の概要

消却する株式の種類	：	当社普通株式
消却する株式の総数	：	1,000,000株（消却前の発行済株式総数に対する割合 7.3%）
消却予定日	：	2026年11月30日

消却後の株式の状況

発行済株式総数	：	12,700,000株

サステナビリティに関する取り組み

地域貢献・技術者の発掘

- イノテック：
  横浜市内の小学生を対象に
  「ロボットプログラミング体験教室」を開催





- 三栄ハイテックス：
  「浜松みらいっこ−地元企業の技術・ノウハウを学ぼう！」に参画し
  小中学生を対象としたプログラミング体験プログラムを実施



- ガイオ・テクノロジー：
  「自動運転AIチャレンジ2026」にブロンズスポンサーとして
  協賛し、社員が大会に参加



将来の事象に関する記述についての注意

本プレゼンテーション資料が提供する情報には、当社の現時点における期待、見積および予測に基く記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

イノテック株式会社　経営企画部
045-474-9030　itc-investorrelations@innotech.co.jp